

〈 研究テーマ 〉

よりよく生きようとする生徒の育成を支えるPTA活動の実践

厚狭中学校 PTA

1 学校地域の概要

山口県の南西部に位置し、美祢市、旧小野田市(現山陽小野田市)、旧厚狭(あさ)郡楠町(現宇部市)に隣接する旧山陽町の中心にあった。平成17年(2005年)3月22日に山陽町と小野田市が合併し山陽小野田市になり、校名も山陽小野田市立厚狭(あさ)中学校となった。

旧山陽町は大きく3つの地区から成り、西部に埴生地区、南部に厚陽地区、そして北東部に厚狭地区が位置し、それぞれの地区に埴生中学校、厚陽中学校、そして厚狭中学校がある。また、厚狭中学校の校区には厚狭小学校と出合小学校があり、両小学校の卒業生のほとんどが厚狭中学校に入学している。

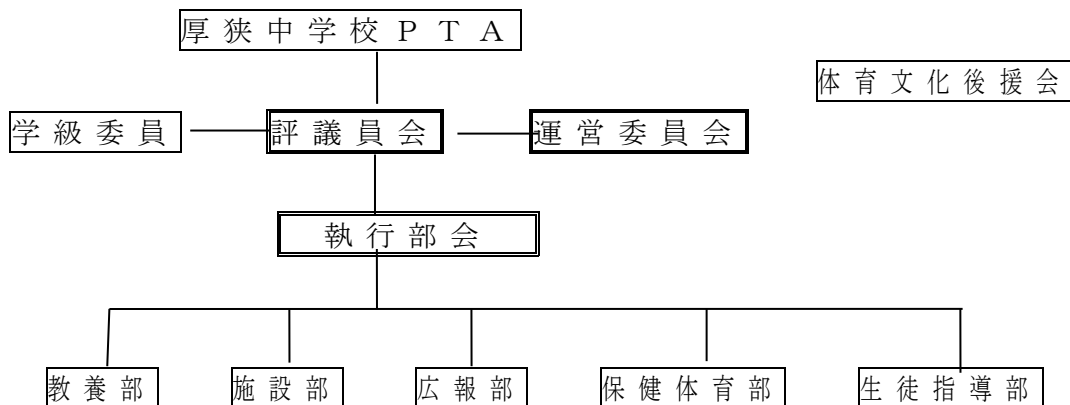
山陽本線及び山陽新幹線、また国道2号線バイパスが校区の中心を走り、昔から交通の要所として栄えるとともに、美しい田園が広がる自然に恵まれた地域である。

生徒は、明るく素直で、気持ちの良い挨拶が学校内外で交わされている。生徒会活動や部活動が盛んで、“博愛”“真理”“至誠”の校訓のもと、充実した学校運営が組織的、計画的に展開され、PTA活動もそれを積極的に支援している。

生徒数は、1年生116名、2年生125名、3年生111名、全校生徒352名(4月8日現在)で、学級数は各学年4学級、特別支援学級5学級で、全17学級の中規模校である。



2 PTAの組織図



厚狭中学校PTAは、執行部と5つの専門部から構成されている。各学級から選出された4名の評議員で評議員会(48名)が組織され、各評議員が希望をもとに5つの専門部に所属し、その中から部長、副部長各1名を選出する。また、各学級4名の評議員のうち2名が学級委員となる。

また、体育文化後援会（役員9名、理事21名、地区委38名）とも連携して、PTA活動の充実や学校運営への支援と協力を図っている。

3 研究テーマについて

今年度の厚狭中学校の教育目標である「よりよく生きようとする生徒の育成」に向けて学校運営や教育活動が展開されており、それに伴ってPTAもさまざまな面から支援と協力を行っているので、本校PTA活動の研究テーマを「よりよく生きようとする生徒の育成を支えるPTA活動の実践」とした。

特に、学校教育目標のサブテーマである「人間力と学習力の向上をめざして」にPTAとして人材面や予算面で積極的に関わっている。

4 活動内容

(1)『地区懇談会』での座談会の企画・進行

毎年6月中旬（今年度は6月18日）に地区懇談会が実施されている。本校の懇談会の特色は、地元の警察署から生活安全や交通安全についての地域情報の提供や指導・説明、地域を明るくする運動団体からの活動の紹介や協力依頼等があり、それに続いて学校保健安全委員会を開催している。

この学校保健安全委員会では、生徒会保体委員会による調査研究発表が行われ、今年度は『メディアコントロール』について、全校生徒へのアンケート結果をもとにプレゼンテーション用ソフトを使った発表であった。

座談会はPTA役員が各グループでのリーダーとなり、事前の打合せや進行表をもとに座談会の進行を行う。昨年度の反省から、限られた時間の中で多くの意見を出し合い、有意義な会とするために、運営委員会で事前の協議や打合せを行ったので、各グループともに積極的に意見交換が図られ、事後のアンケートでも好意的な意見が多かった。



〈アンケート結果〉

(保護者)

- * 保体委員の発表が、よくまとめてあり分かりやすかった。（複数）
- * グループに分かれての座談会がとても有意義であった。
- * メディアコントロールについて、いろいろな話し合いができた。
- * 生徒のメディア利用に関するアンケート結果に驚いた。
- * メディアコントロールを学校全体で取り組み、成果が上がっていることが分かった。
- * 厚狭中学校の情報教育がかなり進んでいる。

- *いろいろな意見が聞けて良かった。
- *参加者が思ったより多かったが、もう少し意見が言えると良い。
- *参加者が少なく残念だった。もっと多くの保護者や生徒に参加してほしい。(複数)
- *グループでの話し合いは、とても有意義だった。
- *生徒と対話ができる機会があったことが良かった。

(外部者)

- *生徒のステージとスクリーンでの発表が素晴らしかった。(複数)
- *座談会でのグループ協議が良かった。
- *生徒が親との約束を守り、きちんと使っていることに感心した。
- *子どもや親の気持ちが分かって勉強になった。
- *生徒のはきはきした話し方がとても良かった。
- *スムーズな進行で、話ができ良かった。

(生徒)

- *地域の方からのいろいろな質問に、自分たちの正直な気持ちを言うことができた。
- *ネットは便利だが、一歩まちがえると大変なことになることが分かった。
- *これからもメディアコントロール週間を続けてほしい。
- *メディアに良い点と悪い点があることを再認識した。(複数)
- *保護者や地域の方がこんなにも自分たちのことを考えてくれていたこと。(複数)
- *メディアを使う際に、改めて制限の必要性を感じた。

(2) 人権教育授業参観と親睦ソフトバレーボール大会

6月18日(土)に厚狭中学校の人権教育授業参観が実施され、PTAも会員や地域の人々への積極的な参加を呼びかけた。その結果、3学年、計12学級での授業に約80人の保護者や地域の方々の参加があった。また、昼には『給食試食会』を開催し、日ごろ生徒が食べている給食を保護者が試食しながら、栄養士から献立の工夫点や調理の行程等の説明を受けた。自分たちの中学生時代を懐かしむとともに、衛生管理等を含めて改善された給食システムと美味しさに感動の声が多かった。



【人権教育参観授業】



【給食試食会】



【親睦ソフトバレーボール大会】

さらに、この日の午後は、PTA保体部が主催して親睦ソフトバレーボール大会を開催した。各学級保護者と教員でチームを編成してゲームを行い、好プレー珍プレーが続出する中で、ともに楽しい汗を流した。

また、優勝チームは、本校の女子バレーボール部（今年度、西部県大会3位）と交流試合を行い、生徒、保護者ともに貴重な体験となり楽しい思い出をつくることができた。

（3）キャリア教育の充実に向けた『カタリ場』実施への企画参加と協力

厚狭中学校の教育目標である『よりよく生きようとする生徒の育成』に迫るために、キャリア教育に視点を当てた活動として、キャリア教育プログラム『カタリ場』を県内の中学校で初めて実施した。自己実現に向けて学習意欲を喚起し、人間力と学習力の向上を図りながら、将来のよりよい生き方につながる活動に対し、PTAとしても全面的に支援することとした。

この『カタリ場』とは、年齢の近い大学生など20数名が中学3年生と接することから活動が始まる。中学生のロールモデルとなるべく、身近な先輩として赤裸々な生き様を語り、進路や悩みを本音で語り合っ、今の（今からの）頑張りが自分の将来につながることを意識させることによって、自己実現を支援するプログラムである。

今回、PTA執行部と学校のキャリア教育部が連携し、『カタリ場』を組織・運営している関係者と協議しながら本事業を推進した。

事前に生徒の実態を保護者や教員の立場から関係者に伝えていたため、実施当日は厚狭中学校に応じた有効なプログラムが企画・準備され、多くの保護者や関係者、報道機関が見守る中で、有意義かつ充実した活動となった。

先輩（代表）が自分の失敗談を含めて生き様を紹介し、自分の中学生時代の思いを伝えながら、目の前の中学生の悩みや不安に寄り添った。さらに、グループに別れてリーダーを中心に話し合いを行い、受験、友達や家族関係、将来への不安等の思いを本音で語り合っていた。生徒の感想（一部）を下記に紹介する。

〈生徒の感想（振り返り）〉

*カベ先輩やあゆむん先輩の話を聞いて、苦しいのは自分だけじゃないし、もっともっ



【 カタリ場の一場面 】

と苦しんでいる人もいるので、勇気が出た。改めて自分はめぐまれている存在だとわかった。特に先輩方の経験談は面白かったし、なによりも新たな発見ができた。どんなにつらくとも生きていれば何か良いことがあるだろうと教えてくれた。改めて自分の夢を見ることができた。それは儚い夢だが、実現するためにはどうしたら良いのかを考えるきっかけになったので良かった。また「カタリ場」があれば、もっとたくさん話をしたいと思った。



* 人生の先輩の話聞いて、感動した。上手くいかない時は、あきらめずにがんばるとい言葉や、素晴らしい笑顔など、実際に先輩の目の前で聞いたので、とてもよく分かった。また、グループになって、1人の先輩にいろんなことを聞いたので良かった。今回、先輩方が話してくださったことを、頭に入れて過ごしていきたい。

【グループに分かれて語り合い】

* 今自分が直したいところを先輩といろいろ話したり、目標を作ったりと、時間が早かったです。あゆむ先輩とカベ先輩の人生紙しばいは、とてもおもしろかったし、いい勉強になりました。中学校で初めてのカタリ場をやった学年として、また機会があれば、カタリ場の生徒ではなく、先輩として後輩にいろいろ自分の人生についてカタリたいです。

* 私は、ずっと自分で逃げないことを目標に、今までがんばってきました。あゆむ先輩もそう言っていたので、私は間違っていないんだと思い、安心しました。私は時間を大切にしたいと思っています。いつか人生が終わってしまうのもそうですが、いつか、私の子供時代が終わってしまい、大人になった時、もっとこうすればよかった……なんて後悔をしたくない。そのためには、今しかない時間をムダにはいけない。でも、未来の自分がどんなことで後悔をするのか、それはやっぱり未来の自分に聞かないとわからない…。だから、傷ついてしまうかもしれないけど、逃げずにがんばれば何かいいことがあると信じてがんばります。



【先輩と生徒の集合記念写真】

* カタリ場の先輩は、すごく面白い方や、はじめてカタリ場をした先輩がいた。僕はかっき先輩のグループで、先輩も今日が初めてだと言っていた。でも、初めてとは思えないほどスムーズに進んでいた。紙しばいでは、あゆむ先輩とカベ先輩の話聞いて、おもしろい話や、今までの経験を話してくれたのが、すごくよかった。またカタリ場をやりたい。

* 今回の経験で自信をつけることができ、さらに成功にはこだわらず、何度倒れても、倒れそうになっても、あきらめない不屈の心を知ることができました。自分はまだまだこれから、限界なんてない。そんなことさえ思い知らされました。とにかく、今回カタリ場をして間違いなく

良い経験になりました。この経験を、なりたい自分、より良い自分を目指すために生かしたいです。

(4)『親子ふれあい奉仕作業』の企画、運営

6月下旬に行われる学校と学校支援ボランティアの連携活動である、校内環境整備（除草作業）にPTA環境部も積極的に支援・協力を行った。

厚狭校区には、ボランティア協力者が多数おられ、コミュニティ・スクール化を受けて、さらに連携を強化し学校と地域、保護者が学校の教育活動や環境整備に積極的に関わっている。

今年度も、多数の参加者があり、築山の剪定など環境整備が図れた。

また、夏休み下旬（今年度は8月27日）にPTA環境部が主催して、『親子ふれあい奉仕作業』を行い、9月の体育祭に向けての除草作業を行った。

毎年、多くの保護者が参加し、全校生徒、教職員がともに汗を流しながら、環境整備を行っている。

中には、草刈機や軽トラックの提供者も多く、PTA会員の理解と協力により、体育祭に向けての環境整備を行うことができた。

さらに、夏休みには、PTA地区委員が各地区の責任者となり『アルミ缶・古紙回収』を実施している。地域住民への回収の協力を依頼し、回収したアルミ缶や古紙はリサイクル業者に買い取ってもらい、教育活動の貴重な資金源となっている。



(5)『体育祭』での競技参加とバザーの企画・運営

体育祭では、プログラムにPTA競技を組み込んでいる。

競技内容は毎年保体部で協議して決定し、全保護者に参加案内をしている。特に親子で触れ合える内容を工夫し、競技者と観客が楽しめるよう配慮している。

今年度は、綱引きを生徒と保護者が4色に分かれて合同チームを編成し、心と力を合わせて一本の綱を引き合った。

また、校外への無断駐車が多く、毎年地域住民から苦情が多く入っていたことを受け、テニスコートや校内の空きスペース



【親子ふれあい綱引き】

ースを臨時の駐車場とした。事前申込書を配布し、PTAの各部が役割りを分担し、早朝から保護者の自家用車の誘導を行った。これにより、地域からの苦情も無く、保護者からもスペースの確保とスムーズな誘導に対して好評を得ることができた。

PTAの活動と並行して、体育文化後援会でもバザーの販売を担当している。昼休みを中心にジュース等の飲み物、またアイスクリームやカキ氷の販売を行う。特に暑い時期での開催となるので、生徒や保護者にとってたいへん喜ばれている。さらに、地区委員が早朝から集まって袋詰めした梨の販売も行っている。このバザー等の収益金は、学校教育の活動資金となっている。



【体育文化後援会のバザー】



【体育文化後援会の梨の袋詰め】

(6) 『文化祭』バザーの企画・運営

文化祭では、昼食用としてPTA施設部がうどんやおにぎり、教養部がパンやドーナツ、ジュース等の飲み物、保健体育部がフランクフルトを販売した。また、生徒指導部は、保護者や地域の住民に協力を呼びかけ、提供していただいた物品を友愛セールとして販売した。



【文化祭バザー（うどんの販売）】



【文化祭バザー（パン、ジュース類の販売）】



【文化祭 友愛セール】

5 成果と課題

以上のように、厚狭中学校PTAは、学校教育目標である『よりよく生きようとする生徒の育成 ～人間力と学習力の向上をめざして～』に向けて学校教育が推進される中で、それを全面的に支援・協力し、生徒の健全育成とPTA活動の活性化、さらには地域の発展を目指して活動してきた。

特に、今年度は、キャリア学習プログラム『カタリ場』を全県に先立ち実施し、受験を控えた3年生にとって貴重なキャリア学習の機会となった。先輩たちの語りを見つめる生徒の目の輝きや生徒からの熱い語り、更には活動後の生徒の感想（振り返り）を見ると、この活動の意義や成果が十分に伝わってきた。今後も、ぜひ活動を継続していけるよう、PTAとしても支援していきたい。

ただ、この活動には資料の準備、関係者との打合せ、大学生の事前研修費や旅費等、かなりの経費が必要である。今年度は山口県PTA連合会の活動支援助成金を受けることができたので開催の運びとなったが、来年度以降の実施については、これから検討していく必要がある。

最後に、これからも厚狭中学校の教育活動の充実と生徒の人間力の向上に向けて、PTAとしてしっかりと支えていきたい。